

会員各位殿

129 回学術大会メインシンポジウムプレゼンファイルアップロード(会員限定)

ご存じと思いますが、日本補綴歯科学会が東京都健康長寿医療センターとともに、共同研究をして参りました大規模疫学研究（草津研究）の成果が無事 GGI 誌で Free PMC Article（どなたでも、無料でダウンロード可能）として出版されました。また、129 回学術大会のメインシンポジウムでその内容を発表（九州大会、2020 年 6 月 26 日）させて頂いたことを受けて、会員各位に Microsoft Power Point File (.pptx) の形で公開することになりました。このような対応をすることは、前々研究推進委員会（矢谷委員長）のご意向でもありました。また、多くの会員から、日本補綴歯科学会総会（2019 年 6 月 16 日）で発表させて頂いた後に、前研究推進委員会に対して個別にファイル提供の依頼があり、論文発表が終わるまでは内容の修正の可能性があるのでお断りをしていた経緯もあります。

本研究の内容は、会員が日々精励されている補綴歯科治療自体が、多品目の食品摂取等を介して国民の自立喪失の予防や生命予後に良い影響を及ぼす可能性を示唆するものであり、大川理事長が唱えておられる「食力向上による健康寿命の延伸」の根拠として、大変大切な一歩であると考えます。また、毎食の度に知らず知らずのうちに大きな影響があると注目する厚生労働省の「健康寿命延伸プラン」とも方向性を一にするものであります。先日の 129 回学術大会のメインシンポジウムでもご披露しましたが、多くの原著論文や総説論文、メタアナリシスがこの方向性を支持しており、この方向性が大きく変化する可能性は低いと判断致します。したがって、会員各位が多方面で、この事実を国民や行政関係者、地域医療従事者、学生にお伝え頂く事が重要と考えます。全会員にダウンロード方法をメルマガ 193(9/25 発行)でお知らせしますので、ご希望の会員におかれましては、ダウンロードをお願い致します。

最後に一つだけ注意をお願いいたします。本日本語スライドに書かれている内容は若干の委員会メンバーの解釈を伴うものです。内容に対する批判的な吟味は期待するところですが、その際には査読を経て出版された原著論文を御確認、ご引用の上でお願いいたします。また、会員ご自身による本スライドファイルの内容の変更に関しては最低限に留めて頂きますよう、お願い申し上げます。本研究に関与された全ての関係者に心から御礼を申し上げるとともに、本ファイルの公表が先生方の今後の臨床活動や研究活動、ひいては国民の健康維持による影響を与えますよう衷心から祈念致します。

公益社団法人日本補綴歯科学会理事長
公益社団法人日本補綴歯科学会前研究推進委員会委員長

大川 周治
窪木 拓男